

賈樟柯と『三峡好人』について

～劇映画『三峡好人』と記録映画『東』の関係から～

板谷俊生
(外国語学部 中国学科)

キーワード

賈樟柯 劉小東 『東』 『三峡好人』

1. はじめに

1.1 「南水北調」中央ルート完成の報道

2014年12月28日付け「朝日新聞」朝刊に「北京へ1400キロ 水届いた」「発案60年 不足解消狙う」という見出しが躍り、長江流域の水を中国北部に運ぶ「南水北調」という長年のプロジェクトが27日に完成したことが報道された。「朝日新聞」は、「国営新華社通信」報道をつぎのように紹介している。以下に少し拾ってみる。

「27日午前、北京市郊外の水門が開き、長江支流の漢江から運ばれた水が観光名所の頤和園近くの調整池に流れこんだ。主に市民の飲み水として用いられ、深刻な渇水に備えて郊外のダムにも蓄えられるという。」

「送水が始まったのは、河南・湖北省境の丹江口ダムと北京、天津などを結ぶ全長1432キロの中央ルート。2003年に着工し、総工費は約2千億元（約3兆9千億円）超かかった。」

「中国1人あたりの年間水資源量は世界平均の約4分の1。なかでも北京は、約80分の1の10立方メートルほどしかない。」

「「南水北調」は1952年、黄河畔の乾いた大地を見た毛沢東が「(中国は)南方に水が多く、北方に少ない。できることなら、水を借りてきてもいい」と述べたのをきっかけに構想されたとされる。」

国家的一大プロジェクトであるにもかかわらず、「環境に影響 効果疑問も」の見出しが示すように、手放して喜べる状況ではないことを「朝日新聞」は紹介している。さらに記事を

少し拾ってみることにする。

「首都への送水は、共産党政権の威信をかけたプロジェクトの節目だが、大がかりな式典はなし。メディアも比較的淡々と報道している。その背景には、事業に向けられる専門家や市民の複雑なまなざしがある。」

「巨大事業では、約42万人の住民が立ち退きを余儀なくされた。北京紙の北京日報によると、近年、北京では水の供給量が需要に比べ年間15億立方メートルほど不足。しかし、今回、北京に割り振られる水は、年間10億立方メートル余り。急速な経済成長で水需要は計画段階より高まっており、これで問題が解決されたわけではない。」

「逆に漢江の水量は中下流域で4分の1ほど減るとの試算があり、水質の悪化や、魚の産卵場所が失われるなどの生態系への影響を懸念する声が専門家から相次いでいる。」

1.2 南水北調工事

中国語では「南水北調工程」という。『岩波現代中国事典』によれば、「華北の水資源不足を補うため、長江から黄河以北まで引水する水利建設事業」^(注1) のことである。さらに同書も先に引用した「朝日新聞」の毛沢東の発言を紹介した後、「78年3月の5期全国人民代表大会第1回会議で実施が決定された。計画は3ルートから成り」として、「北京、河北、河南、湖北の4省・市への給水を目的とする」中央ルートと東ルート、西ルートを紹介している。先の「朝日新聞」によれば、「江蘇省の長江下流と天津などをつなぐ」東ルートは、「2002年に着工、13年末に1期工事が完成して送水が始まった。」と報道している。西ルートは、「長江上流の通天河など3支流から黄河上流へ引水するもので、凍土上にダム・堤防やトンネルを作るなど大規模な建設工事が必要」^(注2) で、現時点では、「調査段階にとどまり、着工していない」^(注3)。

三峡とは、「長江上流の瞿塘峡、巫峡、西陵峡の総称。西は重慶直轄市奉節の白帝城から東は湖北省宜昌の南津関までの193kmの間に、上流から瞿塘峡、巫峡、西陵峡と続く。長江が標高1000—1500mの巫山山脈を貫通しているために形成された、世界最大級の峡谷。」^(注4) である。そして、「長江の洪水防止、発電、航運の増強などを図る多目的ダム」^(注5) としての国家プロジェクトが三峡ダムプロジェクトである。

三峡ダムプロジェクトが正式着工に至る過程をつぎに簡略にまとめてみることにする。^(注6)

1919年、「孫文が「実業計画」において、長江の大規模ダム建設を提唱。」その後、「国民党政府により」「ダム建設計画が打ち出された」が、「技術問題を解決できず」着工は未実現。

1950年代、先に引用した毛沢東の言葉を受けて、関係部門が「測量や研究、設計」を行う。

1972年、「華北地区で発生した大規模な旱魃のあと工事計画が作成される。」

1978年、「5期全国人民代表会議1回会議で実施が決定され」る。

1984年、「國務院が三峡プロジェクトの事業化可能性調査報告」を承認。

1990年、「國務院三峡プロジェクト審査委員会」が発足。

1991年、「審査委員会」は「國務院」に対して「全国人民代表大会の審議」を提案。

1992年、「7期全国人民代表大会第5回会議」において、「出席者2633名のうち賛成1767票、反対177票、棄権644票」、可決に必要な「3分の2をわずか12票上回る。」ここに國務院の提案は承認される。

1994年、「正式着工。」

2. 劇映画『三峡好人』の誕生秘話

三峡ダム建設に関する映画において、賈樟柯の『三峡好人』は群を抜いている作品であるといっても過言ではないであろうし、それに異論をさしはさむ見方もさして多くはないであろう。

賈樟柯の映画人生およびこれまでの彼の人生を色濃く反映している映画や賈樟柯が陳凱歌、張藝謀ら「第五世代監督」に決別状を投げつけた状況についてはすでに拙論^(注7)にまとめているので、本稿では劇映画『三峡好人』の紹介とその誕生の過程を中心にまとめておきたい。三峡ダム中央ルート建設が完成し、北京への送水が開始された現在、映画『三峡好人』を再鑑賞することは意味ないことではないであろう。当時の中国における社会問題、例えばこの映画で扱われている住民移住問題や国営企業解体、それに伴う賠償・補償問題、売買婚問題等々が現中国ではどうなっているのかをこの映画を通して一考するのも無意味ではないであろう。さらには、三峡ダム建設による水質悪化等の環境汚染問題という今日的な問題について一考するというのもそれほど意義のないことではないであろうと思われる。

2.1 記録映画『東』

劇映画『三峡好人』は賈樟柯が最初から丹念に計画を練りながら、試行錯誤を繰り返しながら出来上がった映画ではなかった。実は計画外の映画、思わぬ副産物として誕生した映画だった。それは中国美術界の革命児と称される劉小東との出会いによって生まれたといっても過言ではない。

劉小東は1963年、遼寧省錦州市に生まれ、1995年に北京中央美術学院油画系碩士を取得し、その前年の1994年からは北京中央美術学院で教鞭も執っている。非常に多才な人物で、学生時代から注目されていた。劉小東は新境地開拓のため、2002年、三峡に行き、新たな創作にとりかかった。翌2003年には油絵『三峡大移民』を、2004年には『三峡新移民』を完成させた。

賈樟柯と『三峡好人』について

さらに2005年、彼は賈樟柯を誘って、彼を主人公とする記録映画『東』の制作を依頼したのだった。劉小東は2002年から毎年三峡に行き、創作活動をおこなっていたが、一方、賈樟柯はこれまで彼自身の生活範囲内を自身の映画の世界として創作してきたため、三峡は彼にとっては初めての世界であった。

賈樟柯は劉小東の絵画について、また劉小東から三峡行きを依頼されたことについて、つぎのように述べている。

这是我第一次去三峡，特别感谢刘小东。因为这之前我本来想拍一个纪录片，拍他的绘画世界。我从1990年看他第一个个展，特别喜欢他的画。他总是能够在日常生活里发现我们察觉不到的诗意，那个诗意是我们每天生活其中的。这个计划一直搁浅，一直推后。有一天小东在去年9月的时候说要到三峡画11个工人，我就追随着他拍纪录片《东》。^(注8)

賈樟柯は中国現代美術家・劉小東の個展を1990年に見てから、彼の絵画に非常に大きな興味を抱くようになったこと、そして彼の記録映画を撮りたいとそのチャンスをうかがっていたが、なかなかそのチャンスに恵まれなかったこと、しかし、2005年9月にようやくチャンスが到来したということが上記の引用文から窺い知れる。

「这是我们一整代人的懦弱」が2006年12月4日に北京大学でおこなった講演会の記録であるので、「去年9月」とは2005年9月のこととなる。2003年から連続3年続けて三峡に行く劉小東とともに賈樟柯も三峡に行くことになった。その目的は劉小東の仕事ぶりをカメラに収めるという賈樟柯の記録映画撮影のためであった。

賈樟柯は三峡に行くことを決心した動機について、以下のように語っている。

「この映画を撮るまで、三峡には行ったことがなかった。三峡に関する情報はすべてメディアから得ていた。先ず人々はダム建設が必要かどうかを話し合った。ダム建設が始まってから、人々は住民の移住問題、環境保護の問題、文物保護の問題を討論し始めた。しかし、これら是一切ダム建設の進展を阻止することは許されなかった。三峡ダム地区には二千年以上の歴史を有する都市があり、その都市が二年の間に相次いで壊されていく。古い都市は次第に水没していき、数百万の人たちは他所への移住を迫られ、それが済んだら、ここはその瞬間静かになる。

すべてが既成事実に変化すると、メディアさえも此処のことに対して以前のような情熱を失ってしまった。物言わぬあの現地の人々はひとりこの大きなプロジェクトがもたら

す悪い結果を担うことになる。私が撮影機を持ってここに来たとき、長江沿いの古い県城の取り壊しはすでにエピローグに近づいていた。しかし、山上の新県城はまだ工事が終わっていなかった。此処の現実には私は呆然としてしまった。取り壊された後の廃墟と水没間近の土地を眺め、それから顔をあげて遠くに高く聳える新城を見て、困難は過ぎ去ったばかりなのか、それとも希望が始まったばかりなのか、本当にわからなかった。私は一緒に三峽に行って創作活動をしようとの劉小東の誘いを全然躊躇なく受け入れた。私は彼の作品が好きだ。彼と一緒に同じ場所で異なるやり方で同一の題材を処理することができるのはとても興奮する出来事だった。」^(註9)

また、賈樟柯は彼が初めて三峽に行くことになった経緯について、つぎのように述べている。

拍这个片子首先不是因为三峡，而是小东要去画画，于是邀我去拍纪录片。本来我就好奇他工作状态是怎样的，他到那里是如何展开工作的，他是如何面对他画里的人的。我从来没有去过三峡，但是第一次看到他关于三峡的画的时候就特别喜欢。对那个地方也产生了兴趣，于是就与他一起去了。^(註10)

劉小東から彼の絵画の世界を記録映画として撮らないかとオファーがあったこと、さらに、賈樟柯は以前から劉小東の仕事ぶりに関心・興味があり、「彼が三峽でどのように仕事を展開する」のか、また「彼が彼の絵画の中の人物たちとどのように相對する」のか、とても関心があったことが上記引用文から理解できる。

賈樟柯は劉小東とともに三峽に行った。彼は劉小東をカメラを持って追いかけて、劉小東の仕事ぶりをカメラに収めていくという作業をおこなっていった。

賈樟柯は記録映画『東』の撮影の背景について、つぎのように述べている。

这个纪录片就是围绕他画画这一事件来表达对这个地方的感受吧。小东选择这个地方有他的理由，它正在消失，一切都是变化着。今天这个人在，明天这个人可能就不在了，他可能去世了，或者离开了。所有这些都流动变化着。小东创作的时候基本上是在奔跑，比如说与光线比赛，他选择画画的地方的后面有一个楼，如果不快画阳光很快就被它遮挡住了。在工作现场的时候，我逐渐地进入到所谓画家的世界里了。^(註11)

賈樟柯が撮った記録映画『東』は劉小東が絵を描くという行為を通して、劉小東のこの三峽という地域に対する体験・思いを表現したものである。ここには、人は忘却する生き物である、

私たちはいとも簡単に過去を、現在を忘れてしまうものだ、だから私たちには記録映画が必要なのだ、という賈樟柯の持論が劉小東の考えと一致していることが窺い知れる。そこで賈樟柯は三峡に来て、劉小東と一緒に仕事をする中で、以前にも増して劉小東という画家と彼の絵画の世界に引き込まれていった。

劉小東の芸術と内面への理解に対して、賈樟柯はつぎのように述べている。

他最终让我感动的不是他选择三峡这样一个巨变的地方，而是对生命本身、对人本身的爱。在小东那里，他所面对的。是同一个身份的人——搬迁工人。他表达的，是一种只可以在这个特定人群身上呈现的美感。你会感觉到他心里装满了对他画笔下人物的感情。这是这次三峡之行最令我感动的地方。以前我也拍过别的题材的纪录片，但是都没有对人这样爱过。我觉得这可能是受和他一起工作时心态的影响。于是之后我又拍摄了一个故事片，这完全是计划之外的，和以前的作品相比改变也很大。这也是在我拍他画画过程中萌发的一些感想吧——不管人在怎样的环境中，造物主给予人的身体本身是美丽的。

我也算一个美术的发烧友，我一直想发现他绘画世界里的“秘密”。现在回过头来看他的一些画，会发现他有一个延续不变的闪光点，那就是每一个画面里的人都有着只属于自己的生命之美。用“写实”啊、“现实主义”啊等等这些词汇都不能概括他作品的意义。他有着一个最直接的，对对象本身，对生命的爱在里面，非常自然，非常原始。在今天这样一个被包装得失去本色的社会里是非常难得的。我的纪录片叫《东》，用的是他名字里的一个字。也暗喻我们所处的一个位置，一种态度。^(注12)

劉小東は「巨大な変化を続けている三峡を描こうとしたのではなく」、三峡地域で家屋解体作業に従事する労働者の生命、彼らがハンマーをふるって家屋を解体していくときに彼らの肉体からほとばしり出る美を描いた。その根底には劉小東の「人に対する愛」というものがあり、賈樟柯はそれに深く触れて、「感動した」のだった。そして賈樟柯はこれまでの彼の映画とは異なる映画創作をしてみたいという思いがむくむくと頭をもたげてきたということが上記引用からうかがい知れる。

2.2 劇映画『三峡好人』の誕生

賈樟柯は劉小東と一緒に仕事をしていく中で、無性に三峡地域の人、三峡地域の生命力を映画に撮りたいと思った。これも賈樟柯が劉小東の絵画制作過程をカメラでおさめるという中で芽生えた感想である。

賈樟柯は劇映画『三峡好人』の誕生について、つぎのように語っている。

「最初の計画では、記録映画を撮るだけだった。しかし、記録映画の撮影を始めると、私は徐々に此処の生活に対して想像し始めるようになった。此処の人たちは生活に対して非常に積極的である。彼らは職探しを「活路を見出す」という。彼らは平然と生活苦を認め、そしてそのために生命の活力を爆発させるのである。いかに生きていくことが難しくても、生命自身の美しさを覆い隠すことはできない。記録映画『東』の三峡部分を撮るために構図を決めようとしていた時、生活のために忙しく走り回っているあの人たちを見て、突然私はその画面から出て行ったあとの彼らの生活を想像し始めたのだ。あの物言わぬ人たち、多くのことを心のうちに抑え込み、人に向かっては容易に語ろうとしないストーリーを。そこで、私は『三峡好人』という劇映画を同時に撮り始めたのだ。」^(注13)

また、賈樟柯は、同じく劇映画『三峡好人』の誕生について別のところでつぎのように語っている。

「あの地区に入った時、私はすぐに湿気を感じた。町の通りに立って埠頭を見ると、奉節は雲と風が出会い、船が行き交い、色々な人がそこに集まり、忙しくしている。ここでも相変わらず中国人の苦労を見て取ることができた。そのとき映画を撮ろうという欲望が生まれた。最初は記録映画、劉小東の仕事ぶりを撮っていたが、次第にモデルの世界の中に足を踏み込んでいった。ある日、一人の老人を撮影しているとき、すなわち映画の中で十元札を取り出して三明に夔門を見せる俳優、彼を撮影しているとき、彼はカメラの前に立つと非常に自然であった。しかし彼は撮影機の前を離れると、タバコを吸いながらもがしこうそうに笑ったのだ。私はその瞬間の彼の微笑を捕捉した。彼の微笑の中には彼自身の自尊心と映画を受け入れないという気持ちが込められていた。まるで、お前たちのような観光客が、お前たちのような通りすがりの者がいったいどれほど生活というものが分かるのかと言っているようだった。その晩、ホテルに戻った私は眠れなかった。あるいはこれが記録映画の限界かも知れない、どの人もみんな自己を守るある種自然な心理状態を持っているのかもしれないと思った。

そのとき私は生命力に満ちた劇映画を想像し始めた。私は彼らがどのような生活、どのような圧力に直面しているのかを想像し、すぐさま『三峡好人』のストーリーが出来上がった。私は助監督と相談した。私たちはこのような映画を撮らなければならない。なぜなら私たちはよそ者だから。私たちはこの地で本当に巨大な変化を受けながら生活している人のようにはこの地方を理解できない。だから私たちは一人のよそ者としての角度からこの地域を写そう。この地域は川の町だ。あの川は何千年も前から流れている。あんなに多くの人たちが往

来している。力強く流れる川を感じを映画の中に入れるべきだと、私は言った。」^(註14)

3. 劇映画『三峡好人』

3.1 『三峡好人』受賞状況

映画『三峡好人』は公開されるや数々の映画賞を獲得する。まず『賈樟柯簡歴』^(註15)によって、それを見ておこう。

受賞状況

第63届威尼斯国际电影节最佳影片金狮奖

2007年亚洲电影大奖：最佳导演奖

2007年阿德莱德国国际电影节最佳影片奖

2007年特罗姆瑟国际电影节费比西国际影评人奖

第28届德班国际电影节最佳导演奖

第14届智利国际电影节最佳影片奖；最佳男演技

2007年度日本《电影旬报》年度最佳外语片奖；最佳外国导演奖

2007年度日本《朝日新闻》年度最佳外语片

2007年度日本大阪电影节年度最佳外语片

2007年度日本《毎日新闻》年度最佳外语片

2007年度法国《电影手册》编辑选择年度十大佳片第二名，

读者票选年度十大佳片第一名

2008年洛杉矶影片人协会最佳外语片；最佳摄影奖

以上から賈樟柯はベネチア国際映画祭金獅子賞受賞を皮切りに、アジア・フィルム・アワードにおいて最優秀監督賞を受賞するなど数々の映画賞を獲得していることが理解できる。また、ベルリン、カンヌ、ベネチアの三大映画祭でグランプリを獲得した中国を代表する監督の一人であることも理解できる。

3.2 ものがたり

オープニング。長江に汽笛が鳴り響く。船上。ゆっくりとカメラが左から右へターンする。トランプ遊びに興じる人々。上半身裸の男たちがタバコを吸いながら談笑している。彼らは観光ではなく、生活のために川を下る。船尾には一人ぼつねんと主人公の韓三明がぼんやりと風景を見ている。彼らを運ぶおんぼろ船の横を豪華客船が通る。このオープニングは、此処の人

たちはこの川と共に生きているということを表現している。

奉節に上陸した韓三明は強引に怪しげな小屋の中に押し込まれ、インチキマジックショーを見せられ、小流氓たちに金を出せと恐喝される。機転を利かせてそこを脱出した韓三明はバイクタクシーに乗り、「奉節県青石街5号」と行き先を告げる。到着後、すでにこの街はダム工事で水没していることが判明する。彼は情報を得ようとその足で住民移住管理所へ赴く。ところが、管理所のパソコンは壊れており、埒が明かないばかりか、担当者は悪びれもせず、明日また来るようにと命令口調で言うのみ。カメラがターンして、移住補助手当配分に差別があったと押しかけた住民たちと管理所責任者の押し問答が映し出される。この移住補助金手当配分が原因の激しい罵り合いのシーンは、中国の現実の社会問題を表現しており、さらに主人公韓三明は奉節が1997年から重慶市の管轄になっていたことを知らなかったことをさらりと表現している。

バイクタクシーのドライバーにおんぼろ木賃宿（1泊1.2元）「唐人閣客棧」に案内される。そこへの途中、街の建物の壁面に「第3期工事の水位—156.5m」という文字が大映しされる。韓三明の部屋に突如上半身裸の下着一枚の少年が出現し、勝手に韓三明のタバコに火を点けて、黙って去っていく。

「烟」の文字が大きく映し出される。

韓三明と宿の主人とは漢語がなかなか通じ合わない。ようやく宿の主人からかつての妻の兄マア（水上生活者）の居所を聞き出した彼はその兄に会いに行く。その途中、奉節の高台に立つ韓三明。美しい町が一望できる。カメラがターンすると家屋を取り壊す作業に従事している労働者の姿。上半身裸で手にはハンマー。

マアに会い、妻のヤオメイの居場所を尋ねる。彼女は宜昌にいると告げられる。帰り際、義兄さん、山西省の酒を受け取ってほしいと二本の白酒を差し出すが、マアは、俺はお前の義兄ではないと言って、受け取らない。

「酒」の文字が大きく映し出される。

宿に戻り、家屋解体業に従事している人々と出会う。夔門を見たか、と10元札（1999年）の絵柄を見せる労働者の一人。三明は返礼に彼の故郷の黄河の壺口滝（50元札）を見せる。

翌日、三明は高台に上り、10元札（2005年）を見ながら現実の夔門と比較する。カメラは解体現場を映す。妻が宜昌から戻るまで三明もここで働くことにする。解体作業労働者たちの筋肉が躍動する画面がかなり長く映される。そこへ、全身白色防護服に身を固めて消毒液（サーズ対策）を散布する数人の人が登場する。

宿で勝手に部屋に入りタバコに火とつけて出て行ったあの少年の歌「老鼠爱大米」が挿入される。

昼食時、一人の女性が他の女性たちを男たちに斡旋に来る。その女性の部屋で三明の娘と同級生が写っている写真を見せてもらう韓三明。

映画「上海灘」の周润发に夢中の自称マークと食事をする。この地方はよく雨が降るとマークが言えば、三明は自分の故郷は少雨で作物が枯れそうだと答える。三明はここでこのマークに身の上を語る。三明は山西省の炭鉱で働いている。此処には妻と娘に会うために来た。以前3千円で買った嫁が娘を出産後、故郷に逃げた。このシーンは、売買婚が行われていることを主人公の口からさらりと語らせる。

彼らは携帯の番号を交換する。

宿のベランダから川を眺める三明。そこからカメラはターンして高台へ。そこには夫を探しに来た女性（沈紅）が一人立っていた。

「茶」の文字が大きく映し出される。

国営企業の工場。ここでもやはり数人の男たちがハンマーで工場の解体作業中。一方、事務所内では罵声が飛び交う。事務所の会議室には左からマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン、毛沢東の顔写真が壁に飾られている。工場長を糾弾する元従業員たちのシーン。沈紅は夫の情報を得ようとここに来たのだった。夫はすでにここを退職していて、彼の私物だけが残っていた。彼女は夫のロッカールームの鍵を怒りと共にハンマーで叩き壊す。ロッカーの中には「巫山雲霧」の茶葉と身分証明書だけが入っていた。

船に乗って向こう岸の町へ行き、夫のかつての軍隊時代の友人を訪ねる沈紅。沈紅は彼に身の上を語る。故郷の家で2年間ただ夫からの電話を待つだけの生活をしてきたと涙ぐむ沈紅。いろいろ尋ね、探し探して、待ち続け、ようやく2年ぶりに再会した夫の口から出た最初の一言、「何しに来たんだ？」大きいため息を一つ吐く妻。妻は夫から逃げるように歩く。高級車（トヨタ）で追いかけ、乗るように促す夫。夔門の見える高台。重く垂れこめる雨雲。

夫：「どうしたんだ？」。妻：「……………」。夫：「何かあったのか？」。妻：「……………」。

ダム建設現場に降りる二人。好きな人ができた、その人と二人で上海へ行く、離婚してほしい、と切り出す妻。理解に苦しむ夫。その後、二人は左右に分かれて去っていく。

「糖」の文字が大きく映し出される。

再び夔門の見える高台に立つ三明の姿。足元の川の上を沈紅を乗せた船が走る。三明の住む宿にもある日突然「拆」の文字が大きく書かれている。

夕食を約束していたマークがいつまで待っても来ない。翌日は朝から雨。三明がマークに電話すると、近くの家屋解体現場の瓦礫の下からマークの携帯電話の着メロが流れる。三明は小舟を雇い、マークを水葬にする。

マアからヤオメイが奉節に戻ったと連絡を受けた三明は急ぎヤオメイのもとに走る。二人は

16年ぶりの再会。ヤオメイは、娘は広東省東莞で働いている、自分は兄の3万円の借金の肩代わりに雇い主の世話をやっていると話す。1年でその借金を返済すると約束する三明。解体間近のビルの一室。ヤオメイが差し出した飴「大白兔」を三明が半分食べ、残りの半分をヤオメイに差し出す三明。再度、喜糖を口にする二人。

明日、山西に帰って、非合法炭鉱で働くその他の作業員たちに話す三明。年間10人以上死亡するが、1日200元は稼げる。家屋解体ではせいぜい50元。

翌日、三明が山西に戻る朝。三明は仲間10人と一っしょに三峡を離れる。三明が振り返る。そこには解体中のビルとビルの上にロープを張り、今まさに綱渡りをしている人がひとり。このシーンは、三明が故郷の非合法炭鉱で働き、妻を縛り付けている3万円の借金を1年で返済すると約束して、決死の覚悟でこの地を離れようとするシーンであるが、三明と妻に明るい希望は何ら感じられない。まず、「大白兔」がここで登場するが、これは何かの事件に巻き込まれて死んでいったマーが生前、彼がかき集めた家屋解体労働者に配っていた飴であり、さらには、三明がここを立ち去る直前に振り返って見たもの、つまり、解体中のビルとビルの上に張られたロープを渡っているシーンが原因である。1年以内に3万円をためて必ずここに妻を迎えに来ることができるかどうかは非常に危うい状況であることを表現している。

4. 登場人物について

4.1 少年・少女について

「烟」のシーンに登場し、何度か『老鼠愛大米』を唄う少年について。ある日街を歩いていた賈樟柯はその少年に偶然に出会った。その時のことをつぎのように語っている。

「ストリートを歩いていると、偶然にも歌を唄っている少年に出会った。彼は私の手を引いて、ホテルが必要かと尋ねたので、私はその必要はないと答えた。すると彼は食事をしたくないかと尋ねたので、もう済ませたと答えた。彼はとても失望して、それなら車はいらないかと尋ねたので、君の家はどんな商売をしているのかと私は尋ねた。彼は笑った。14歳の少年の後姿を見ながら、私はもしかしたらこれが積極的に生きる姿勢というものかもしれないと思った。その後、彼を探し出し、一番好きなものは何かと尋ねた。彼は歌が好きだと答えて、私に『老鼠愛大米』と『兩隻蝴蝶』を唄ってくれた。その後、私はとても強引に彼にテレサ・テンの歌は歌えるかと尋ねて、その後、彼に教えたが覚えられなかった。彼は『老鼠愛大米』しか歌えなかった。そこで映画の中に使った。彼はまるで天使のようだった。」^(註16)

三峡の大人だけでなく、子供たちも「積極的に生きる」という姿勢を持っていることに驚いた賈樟柯は、すぐにこの少年を登場人物の一人として考えたのだった。実は、子供はもう一人登場する。沈紅が川辺を歩いていると、待ち構えていたかのように急に彼女の前に現れた少女。少女は沈紅になにか仕事を紹介してほしいといきなり頼むシーン。沈紅は若すぎると断るが、これも「積極的に生きる」姿勢を持った子供の一人として賈樟柯は登場させている。

我觉得，就好像奉节的人，他们把找工作叫做活路一样，我们应该有更大的勇气迎接我们所有的一切，找工作当然是讨一个活路。他们不麻木，他们乐观。我觉得在我拍摄电影的时候体内又开始有一种血性逐渐地感染了自己，燃烧了自己，就会觉得我们有勇气去面对自己。^(注17)

4.2 韓三明について

賈樟柯は『三峡好人』の主人公のキャスティングについて考えをめぐらしたとき、確信にも似た思いが彼にはあった。その人物は賈樟柯の母方の従弟の韓三明であった。韓三明は以前、賈樟柯の映画『站台』および『世界』にも出演したことがあり、彼特有の、強烈な印象を観客の心に刻んだ人物であった。賈樟柯は韓三明を主人公にしようとした思いについて述べている。

「如何なる状況においても、人はみな尊厳を保とうと試みる。生き続けようとする能動的な能力を保持しようとして試みる。ここまで考えたときに、徐々に、人物が心の中で形成され始めていった。私はすぐに私の母方のいとこ、二番目の叔母の子に思い至った。彼はかつて『站台』において、生死に関する契約書にサインする炭鉱労働者を演じたことがあった。また『世界』においては「二姑娘」の死後の処理に来た親戚を演じたことがあった。今回私は、彼はこの映画の主人公になれるはずだと感じた。……この映画のことを思うと私はすぐに彼の顔を思い出した。私は彼の顔を見るたびに、何も言わなかったが、私がなぜずっとこのような映画を撮りたかったのか、なぜ十年の間私が撮影機をこのような顔の前から移動させたくなかったのかが私には分かっていた。」^(注18)

賈樟柯はいとこの韓三明に連絡を取った。山西省で実際に炭鉱労働者として働いた経験のある韓三明をモデルとした。登場人物名も韓三明とし、職業も山西省の炭鉱労働者とした。その彼が16年前に、売買婚で3千円で三峡地区の女性を妻として迎えた。その妻が女兒を出産後、故郷に逃げた。16年後に、夫の韓三明は妻と娘に会いに三峡へやって来た。妻の兄の3万円の借金のため、妻は現在宜昌の男性に囲われ、そこの船で働いている。韓三明はその借金返済の

ため、給料は良いが、危険の伴う非合法炭鉱に働きに行くというストーリーを賈樟柯は創った。

賈樟柯はつぎのように述べる。

我表弟后来来到剧组，我觉得演得非常好。一开始的时候，我特别担心他跟很多四川的演员搭戏搭不上来，怕语言有问题。^(注19)

賈樟柯は山西省出身の韓三明が、「三峡の現地のエキストラ俳優たちと特に言葉上の問題でうまくやっていけるかどうか心配」したことが上記引用文から窺える。しかし、それは杞憂に終わった。

他说，哥，你不用担心，我听得懂，我们矿上有很多陕西四川的工人，所以陕西话、四川话我全部能听得懂。^(注20)

韓三明の演技は以前より数段上手くなっていた。特にようやく探し当てた妻との16年ぶりの再会の場面は出色であったと、賈樟柯は振り返る。

他沟通得确实很好，跟其他当地的演员。特别是拍到跟他的前妻在江边聚会的那场戏。他的前妻问他一个问题，16年了，你为什么这个时候到奉节找我了？我写的对白是，春天的时候，煤矿出了事情我被压在底下了，在地下的时候我想，如果能够活着出来的时候我一定要看看你们，看看孩子。这个方案拍的很好，第一条过了。他拉着我说，能不能再拍，我不愿意把这些话说出来。为什么把这个理由讲出来呢？因为他说在矿里面什么样的情况谁都了解，如果讲出来，感觉就小了，如果不说出来感觉就大了。

他说得非常好，生活里面那么多的事情何必说那么清楚呢。就好像这部电影其实有很多前因后果，没必要讲那么清楚。因为都是我们这个时代的人，面对这个时代的故事，如果我们有一个情怀，我们就能够去理解。如果我们能从自己的一个狭小的世界里面去观望别人的生活，我们就能够理解。^(注21)

4.3 沈紅について

賈樟柯と沈紅役の趙濤との付き合いは長い。彼女はすでに彼の作品『站台』で主役を務めて以来、『任逍遥』、『世界』と立て続けに主役を務めてきた女優である。賈樟柯の映画を語るとき、

なくてはならない存在の女優である。

今回、『三峡好人』の中では、2年間、音信が全くない夫を探して、山西省から奉節に一人でやってくる看護師の役どころである。夫に対する不信、懐疑、嫉妬、怒り、諦め等々、色々な思いが入り交じった心の表情、演技が素晴らしいものであった。

賈樟柯は撮影現場での思い出に残る趙濤のシーンについて、つぎのように語る。

接着又想到了另一个女主角赵涛，跟我合作过几次的女演员，演一个没有婚姻生活的女性，拍到她跟丈夫做决定的前一夜。原来剧本就写她是一个人，打瞌睡、迷迷糊糊不知道在做什么。我就用一个纪录片的方式，我就让演员坐那儿拍。演员拍了一个多小时，真地坐得很困，慢慢入睡。拍完之后我准备收工，赵涛讲，导演你看墙上有一个电扇，分手这样一个巨大的决定其实没有那么容易下，内心那种躁动不安，那种反反复复是不是可以通过让我来吹电扇把四川的潮湿闷热，把内心的焦灼演出来。我们就拍她吹电扇，她像在舞蹈一样，拍完之后我觉得是一个普通人的舞蹈，是一个凡人的舞蹈。任何一个街上匆匆走过的女性，她们都有她们的美丽，我觉得也通过演员的一个创作拍到了这种美丽。^(注22)

5. 最後に

「ある日、誰もいない部屋に入ると、その部屋の持ち主のテーブルの上に埃をかぶった物があった。突然静物の秘密を発見したようだった。長い間そのままになっている調度品、テーブル上の埃まみれの器物、窓辺の酒瓶、壁の飾り物は突然ある悲しい詩情を持っているように感じられた。静物は私たちが見落としてきた現実を表現している。それは時間の痕跡を深く留めているが、しかし依然として沈黙し、生活の秘密を保持している。

この映画は旧奉節県城で撮影した。ここは三峡ダム工事の進行によって大きな変動が生まれた。先祖代々ここに居住してきた無数の家庭は他所の土地に移住した。二千年の歴史を有する旧県城は2年以内に取り壊され、永遠に水の底に沈んでしまうのである。撮影機を担いでこの間もなく消失してしまう町に入った。家屋の解体や発破、倒壊を見た。大きな騒音と飛び散る砂埃のなか、たとえこのような絶望的な場所においても、生命そのものは輝かしい色を放つだろうと次第に感じ始めていた。

カメラレンズの前を多くの労働者が行ったり来たりしている。彼らの静物のような黙して語らない表情に私は肅然と尊敬の念を抱いた。」^(注23)

『三峡好人』が誕生するまでの過程をまとめるとつぎのようになるであろう。

- 1) 賈樟柯は2005年9月、画家の劉小東のオファーを受けて三峡に初めて行く。
- 2) 三峡で絵画活動を行う劉小東を主人公にした記録映画を撮る。
- 3) その記録映画は劉小東の名前から一字をとって『東』と命名する。
- 4) 記録映画を撮っていく過程で、現地の人々の生活に触れ、劣悪な生活環境、経済的条件の下でも、「彼らは主体的で、彼らにはあまり悩みや苦痛、ためらいはない。一元稼いでは喜び、二元稼いでは喜び、本当に素晴らしい」^(注24)と感じ始める。
- 5) カメラの前から離れた現地の名も無き人たちの、声をあげずに心の中に抑え込んでしまっている何かを想像し、劇映画の創作意欲を掻き立てられる。
- 6) そうして『三峡好人』が完成し、それとともに賈樟柯の映画観や人生観にも変化が生じる。

『三峡好人』撮影後、北京に戻った賈樟柯たちは、なかなか北京の生活になじめず、自分たちがとても穏やかに変化していることに気付くのである。

我们整个摄制组回来以后，很多人都不像原来那样喜欢北京了，觉得这是一个有点虚妄的地方。以前觉得去酒吧玩挺好，现在觉得都没什么劲了，对可以支撑幸福感觉的物质的信心一下子减少了许多。很多人非常怀念在三峡时的感觉。找到最初始的快乐，这个过程最重要。比如将来这个片子发行如何，多少人喜欢它，能在多大范围里传播，我不会最在意。因为主要的快乐已经过去。就像生孩子，一个生命你很珍惜，你看着他自己长大很高兴，但是最初的爱情，生产过程是最怀念的。我回来以后，发现自己变得很稳健，觉得其实生活对你够好的了。^(注25)

〈注〉

- 1) 「南水北調工事」978頁『岩波現代中国事典』（岩波書店 1999年5月）所収。
- 2) 1)と同じ。
- 3) 「朝日新聞」2014年12月28日付朝刊
- 4) 「三峡」406頁。1)と同じ。
- 5) 「三峡ダム」408頁。1)と同じ。
- 6) 「三峡ダム」408頁、「南水北調工事」978頁。1)と同じ。
- 7) 「賈樟柯の映画について—映画『小武』『站台』を中心に」『北九州市立大学国際論集第10号』2012年3月
- 8) 「这是我们一整代人的懦弱」180頁。『賈想1996—2008：賈樟柯電影手記』（賈樟柯著 北京大学出版社 2009年3月）所収。
- 9) 「找到人自身的美丽」223頁。8)と同じ。

賈樟柯と『三峡好人』について

- 10) 「每个人都贴近自己身体的艺术」 213～214頁。8) と同じ。
- 11) 「每个人都贴近自己身体的艺术」 214頁。8) と同じ。
- 12) 「每个人都贴近自己身体的艺术」 214頁。8) と同じ。
- 13) 「找到人自己的美丽」 224頁。8) と同じ。
- 14) 「这是我们一整代人的懦弱」 181頁。8) と同じ。
- 15) 「贾樟柯简历」 264～265頁。8) と同じ。
- 16) 「这是我们一整代人的懦弱」 180頁。8) と同じ。
- 17) 「这是我们一整代人的懦弱」 184頁。8) と同じ。
- 18) 「这是我们一整代人的懦弱」 183頁。8) と同じ。
- 19) 「这是我们一整代人的懦弱」 183頁。8) と同じ。
- 20) 「这是我们一整代人的懦弱」 183頁。8) と同じ。
- 21) 「这是我们一整代人的懦弱」 183～184頁。8) と同じ。
- 22) 「这是我们一整代人的懦弱」 184～185頁。8) と同じ。
- 23) 「《三峡好人》導演的話」 167頁。8) と同じ。
- 24) 「每个人都有贴近自己身体的艺术」 217頁。8) と同じ。
- 25) 「每个人都有贴近自己身体的艺术」 217頁。8) と同じ。